
第 2 7 5 号

2016年3月25日

日 本 気 象 学 会

関 西 支 部 ニ ュ ー ス

- 2015年度の例会報告
- 第9回気象サイエンスカフェ in 関西
報告
- 関西支部第32期役員選挙の告示
- メールアドレス登録のお願い
- 住所変更届のお願い
- (公社)日本気象学会入会案内

〒 540-0008

大阪市中央区大手前4丁目 1-76

大阪合同庁舎第4号館

大阪管区气象台内

日本気象学会関西支部

振替 00980-5-18318

TEL (06) 6949-6143

FAX (06) 6944-2121

ホームページ：

<http://kansai.metsoc.jp/>

E-mail：

kansai-info@metsoc.jp

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際は半角で入力してください。)

○ 2015年度の例会報告

〈第1回〉中国地区

第1回例会は、2015年11月21日(土)に岡山大学環境理工学部において開催されました。本例会への出席者は35名で、8件の一般講演に加えて最後に特別講演が行われました。研究会発表は野沢徹氏(岡山大学)、例会一般講演は加藤内蔵進会員(岡山大学)を座長に進められました。

一般講演の最初のセッション(4題)では、岡山地方気象台の過去2回の露場移設によるデータ不連続性の解析結果(岡山理大・三浦氏)、岡山市街地緑地の気象環境とセラピー作用の関連性の研究報告(岡山理大・中矢氏)、ドイツの冬季から春季への気象要素の変化と文化行事との関連およびヨーロッパの季節遷移時の気圧場の特徴(2題いずれも岡山大・加藤氏)について発表されました。休憩をはさみ、次のセッション(4題)では、最近10年間にみられる中四国地方の夏季の降水特性(岡山大・浅野氏)、農耕地からのメタン・一酸化二窒素ガス放出の長期測定結果(岡山大・内藤氏)、水稻

圃場の境界層で見られる渦拡散係数の特徴（岡山大・中島氏）、児島湖の成層破壊に気象要素が及ぼす影響（岡山大・益田氏）について発表されました。

特別講演は「気象が原因で発生する潮位副振動（meteotsunami：気象津波）のメカニズム」という演題で田中健路・広島工業大学環境学部地球環境学科准教授よりお話し頂きました。主に冬季の季節風卓越時に九州西岸で気象誘因により発生する潮位変動現象に関して、観測の事例解析結果、モデル解析との整合、これらを踏まえた理論的な解釈等について、田中氏が6～7年かけて精力的に進められてきた希有な研究成果について膨大な資料から初心者にも理解しやすくお話し頂きました。

最後に、発表会場の手配と運営を担ってくださった岡山大学大学院環境生命科学研究科および環境理工学部の学生諸氏に対して、心より御礼を申し上げます。

（中国地区理事：岩田 徹）

〈第2回〉 四国地区

第2回例会が2015年12月18日（金）と翌19日（土）の2日間にわたり、香川大学幸町北キャンパス研究交流棟5階ホールにて開催されました。昨年同様、大阪管区気象台四国地区気象研究会との共催として18日13時半から19日12時まで、とても充実したプログラムとなりました。気象台関係者、大学関係者など、39名の参加がありました。

高松地方気象台長の中代誠四国地区理事による開会挨拶により始まりました。例会は5つのセッションで構成され、大阪管区気象台気象研究会と、気象学会からそれぞれ7件、計14件の研究発表と、特別講演が行われました。今回は気象研究会の発表と例会を分けることなく関連する課題ごとにセッションが組まれました。

第1セッション（座長は三浦氏（高松地方気象台））は高松地方気象台、高知地方気象台と高知大学から大雨事例の解析やGPS可降水量と放射冷却の関係について3件の報



四国地区例会の発表風景

告がありました。第2セッション（座長は佐々）は香川大学、岡山大学、高知大学と徳島地方気象台から、インドにおける降水量評価と梅雨初期の九州大雨に関する話題の他、四国における雪に関する4件の報告がありました。

第3セッションの特別講演では、北海道大学低温研究所の特任教授藤吉康志氏より「空のビースト&ビューティーを観る」と題して、降水粒子の様々な形態や微物理に関する話題から、レーダー観測の歴史とともに雲のどのような構造が明らかになってきたか、最新の発見も含めて層状性雲の穏やかな面と対流性雲の激しい面を対比させながら丁寧な解説をしていただきました。普段から気象に関わっている参加者一同ですが、改めて雲の様々な側面を知る機会となったのではないかと思います。

例会1日目終了後の懇親会では、香川大学内の生協食堂において、気象台、大学関係者と例会の研究発表等を話題に楽しいひとときを過ごすことができました。

第4セッション（座長は寺尾氏（香川大学））は高知大学と高知地方気象台から線状降水帯と竜巻のレーダー解析と台風経路ごとの降水特性について4件の報告がありました。最後の第5セッション（座長は北村氏（高松地方気象台））は高松地方気象台と松山地方気象台から雷雨事例と、大雨予報に関する3件の報告がありました。

例会と大阪管区気象台四国地区気象研究会との共催は3年目となり、より融合した形で予報現場と大学関係者が意見交換をできる場が確立されてきたことは、大変喜ばしく思います。最後に、特別講演をお引き受け頂いた藤吉康志教授と会場および懇親会のお世話をいただいた寺尾徹教授、高松地方気象台の皆様、その他例会の運営に御支援、ご協力を頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。

（四国地区理事：佐々浩司）

〈第3回〉近畿地区

第3回例会は、昨年度に引き続き、気象学会例会、大阪管区気象台近畿地区気象研究会との合同で、2015年12月22日（火）に大阪管区気象台大会議室で開催されました。午前中は大阪管区気象台近畿地区気象研究会が行われ、線状降水帯による大雨や突風、ドップラーレーダー・ライダーを利用した関西国際空港の強風の短時間予測といった災害につながる現象を題材に気象業務と結びつきの強い発表がありました。

午後は関西支部第3回例会が開催されました。本例会には学会関係者および気象台関係者合わせて50名以上が参加し、今年は昨年度を上回る12題がエントリーされ、気象学会から10題、気象台から2題の一般講演が行われました。上垣内修日本気象学会関西支部長の例会開催挨拶の後、一般講演は、山下寛（大阪管区気象台）、向川均（京都大学防災研究所）、大澤輝夫（神戸大学大学院海事科学研究科）の座長により進められました。昨年度に引き続き、様々な分野の研究発表がありました。発表時間は15分、質疑は5分と余裕のある時間配分だったこともあり、進行はスムーズに行われました。

セッション1では、山下座長のもと、初めに気象台が現在、普及啓発として取り組んでいる防災授業の理解度及び教員に対するアンケートからの考察についての発表、続いて片平会員からは気象解説者からの立場から見た「命を守る」気象情報の課題の考察と改善策の提案について発表され、気象学会としては新鮮な研究発表となりました。大阪教育大学の山下会員からは隣接面過程が雪の結晶成長に果たす役割、奈良県立奈良高等

学校地学部の4人の生徒さんからは、夜空の“先”を見通せ！～夜空の明るさの予測と光害の再現～ についての研究発表がありました。セッション1の発表終了後、奈良県立奈良高等学校の前田先生からは、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）としての学校紹介がありました。



近畿地区例会の発表風景



奈良高校の高校生による発表

例会発表の認定証の授与

セッション2では、向川座長のもと、平年日降水量時系列のクラスター分析による近畿地方の地域区分—近畿の気象予報区域との比較—、日本沿岸とドイツ沿岸の洋上観測値を用いたWRF計算風速の精度比較、GSMaPデータを用いた梅雨期東シナ海上における降水の解析、2014年の北大阪周辺での線状降水系による大雨について発表されました。

最後のセッション3では、大澤座長のもと、日々の高低気圧の出現状況でみたヨーロッパにおける冬から春への季節遷移—東アジアとの比較の視点で—、日本の盛夏期の降水と大気場に関する総観気候学的解析、1970年代以降の冬型気圧配置の特徴に関する解析（初冬と真冬の違いも意識して）、秋が深まる頃の台風による日本付近での広域降水の特徴～2013年台風26号を例に～が報告されました。

例会の発表の終了後、奈良県立奈良高等学校の研究発表に対して、上垣内修日本気象学会関西支部長から認定証が授与されました。今回の例会は、奈良県立奈良高等学校の地学関係の先生や生徒さん達も参加してもらうことができ、高校生にとって大学の研究者から直接、アドバイスをいただける貴重な機会となったのではないかと思います。

最後に、会場の手配や準備及び例会の運営にご協力いただいた、大阪管区気象台職員、日本気象学会関西支部の関係者の皆様方、座長をお引き受け頂いた先生方、その他例会の運営に御支援、ご協力を頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。

(常任理事：山下 寛)

○第9回気象サイエンスカフェ in 関西報告

サイエンスカフェは、業界外・学術界外の一般市民が気軽に覗ける窓口として、話題提供者とテーマを用意し皆で語り合う目的で開催するお茶会です。

2016年2月6日(土)、大阪心斎橋の英國屋にて第9回気象サイエンスカフェ in 関西を開催しました(日本気象学会関西支部と日本気象予報士会関西支部の共催)。当日の参加は25名、関西ローカル局正午前の天気予報で6年間キャスターを務めた西口香織さんを招き、「天気予報活用術～気象キャスターが教えるここだけの話…～」のスライド映像と講話で話題を提供して頂きました。

「近畿地方の天気予報」と題され地域一円に放送されるとはいえ、まず一部お隣地方の県まで入っており、これに今の季節や地域別の関心事まで考慮して、どの情報を言葉で伝えるかの取舍選択が大変。そもそも天気予報は情報番組の時間調整枠にされることが多く、最近では2分しか取れないケースも珍しくないため、思い切った判断が必要になっているとのこと。衛星の雲画像や天気図は一昔前より画面に出さなくなっている一方、「マル暖」「マル寒」のようなイメージ表記をキャスター独自で日本地図に描きこむ手法が増えてきているといいます。



講演する西口さんと参加者の皆さん

面白かったのが、気象予測の説明部とそれに基づく「この後のお天気のポイント」なる結論部を、どう順序立てるかのお話。「起承転結」式の順序での解説、対して「結・起承転」式に結論でまずツカミにかかる？順序もあり、現在は後者が目立つ傾向にあるそうです。イメージ表記の解説ボードはキャスターに任されることも多い反面、「起承転結」か「結・起承転」かの基本構成は局の意向やキャスターの所属会社での教えで決まっていることが殆どなのだとか。

気象庁の予報と民間気象会社の予報、いずれに則って天気予報を流すかは放送局によって分かれるところであり、従って局により予報が異なる場合も時々見られます。どこの気象キャスターも他局の天気予報をよくチェックしているものですが、こと防災に関わる情報が食い違くと被害につながるおそれがあるため、視聴者が混乱を招かないよう気を付けるのだそうです。

年々進化を続ける天気予報は、紫外線指数や鍋指数など指標値も多様化し、夏には朝5時に晴れの予報が出ていても、刻一刻と天気の実況が変化するのに合わせて予報修正が加わり夕方5時には雨の予報に変わっていたりと、今や見る方にもそれなりの知識と

確認を要求するものになっています。

テレビでキャスターが伝えるのは、限られた時間内に最大多数の人が、一番大きなポイントを外さないための内容だと捉え、普段からインターネット等の詳細情報を適宜確認し、理解を深めておいてくださいというお話でした。

残念ながら迂闊に活字にできない業界内情の会話も飛び交い、ふと気が付けば1時間半が経ちお開きの時刻。第9回気象サイエンスカフェ、参加者の皆さまには十分御満足いただいで終了することができました。

(常任理事：難波 良彰)

日本気象学会関西支部第32期役員選挙の告示

日本気象学会関西支部規約（第9条）及び日本気象学会関西支部役員選挙細則に基づき、次期役員選挙を以下の要領で実施する。

日本気象学会関西支部選挙管理委員会
〒5400008 大阪市中央区大手前4-1-76 大阪合同庁舎第4号館
大阪管区気象台防災調査課内（電話06-6949-6143）
（委員）西津 正明、土井 ひかる

(1) 選出する役員数

常任理事7名、地区理事6名（近畿・中国・四国各2名）、会計監査1名

(2) 立候補の届出

- ア. 立候補の資格・・・2016年4月15日現在で関西支部の個人会員である者。
- イ. 届出の手續き・・・立候補もしくは候補者を推薦する者は、選挙管理委員会に届出用紙を請求し、必要事項をもち、なく記載の上、同委員会に提出すること（郵送可）。
- ウ. 届出の期間・・・2016年4月4日（月）から4月15日（金）までに届けること（必着）。
- エ. 届出の宛先・・・〒5400008 大阪市中央区大手前4-1-76
大阪合同庁舎第4号館 大阪管区気象台気象防災部気付
日本気象学会関西支部選挙管理委員会
- オ. 立候補者の資格審査・・・立候補届出期間終了後、速やかに行う。
- カ. 立候補者名簿の記載順序・・・立候補者資格審査合格者について、選挙管理委員会が抽選により定める。
- キ. 立候補受付状況の公開・・・立候補届出者の氏名は、関西支部事務局および選挙管理委員会に随時照会することができる。

(3) 投票

- ア. 投票の実施・・・立候補者がそれぞれの役員の定数を超えた場合に実施する。立候補者がそれぞれの役員の定数内の場合は無投票当選とする。
- イ. 有権者資格・・・2016年4月15日現在で関西支部の個人会員である者。
- ウ. 選挙公報および投票用紙・・・選挙公報（立候補者名簿等を含む）と投票用紙は、全有権者に郵送する。これが2016年5月6日（金）までに届かない有権者は直ちに選挙管理委員会に申し出ること。
- エ. 投票期日・・・2016年5月20日（金）までに選挙管理委員会に持参または郵送すること（郵送の場合は2016年5月20日以前の消印のあるものを有効とする）。
- オ. 投票方法・・・無記名文書投票。投票方法の詳細は投票用紙とともに郵送する。

(4) 開票および結果の公表

- ア. 開票期日・・・開票は2016年5月26日（木）に大阪管区気象台内にて行う。有権者はこの開票に立ち合うことができる。
- イ. 当選者の決定・・・選挙細則第5条の定めによる。
- ウ. 結果の公表・・・結果は、当日学会関西支部事務局（大阪管区気象台）に掲示、かつ関西支部ホームページに掲載する。

日本気象学会関西支部役員選挙細則

1. 理事および会計監査（以下、役員）は、会員による選挙で、自薦立候補者と会員2名以上の推薦による立候補者（以下、両者を立候補者とする）の中から選出する。
2. 常任理事および会計監査への立候補者の資格は、近畿地区（滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫各府県）に在住の会員とする。
3. 地区に属する府県、および各地区から選任する地区理事の定数は次のとおりとする。
近畿地区（滋賀、京都、大阪、奈良、和歌山、兵庫各府県） 2名

中国地区（鳥取、岡山、島根、広島各県） 2名

四国地区（香川、徳島、愛媛、高知各県） 2名

- 4.選挙は、無記名連記の文書投票による。連記する数は、役員の数とする。但し、立候補者が定数内の場合は無投票当選とする。
- 5.役員の当選は、常任理事と会計監査にあつては有効得票数の多い順、地区理事にあつては各地区毎に有効得票数の多い順によって定める。ただし、得票数が有権者総数の10分の1に満たない立候補者は、役員となれない。
- 6.役員が、該当する地区の外に異動した時は失格とする。
- 7.役員が、特別の事情により辞任を申し出た場合は、その任期中においても、常任理事会の議決により、解任することができる。
- 8.役員に欠員が生じた場合は、次点者を後任役員とする。次点者がいない場合は、常任理事会の議を経て、支部長は該当する地区の会員から、後任役員を推薦することができる。支部長が推薦した後任役員は、総会で選任されるまでの間、役員に準じて職務を行うことができる。後任役員の任期は、前任者の残り期間とする。
- 9.立候補者あるいは推薦者は投票締切日の25日前までに、立候補者名、立候補する役員名を記入して、書面により選挙管理委員会に提出しなければならぬ。
- 10.選挙に際してはその都度選挙管理委員を若干名おく。委員は会員の中から支部長が任命する。
- 11.立候補者は、選挙管理委員となることはできない。
- 12.選挙管理委員会は、支部規約および本細則に従い、以下の任務を行う。
選挙の告示、役員立候補者の受付と発表、投票の実施、開票と結果の発表
- 13.投票を実施する場合、選挙管理委員会は、立候補者名を投票締切日の20日前までに、会員に告示する。
- 14.投票は所定の投票用紙と封筒により、選挙管理委員会に郵送、または持参するものとする。郵送の場合は投票締切日の消印のあるものまで有効とする。
- 15.選挙の結果は、支部長が選挙後、最初の総会で報告する。

付 則 この改正は1995年6月20日から実施する。

この改正は1998年6月17日から実施する。

○ メールアドレス登録のお願い

関西支部ニュースは年3回（5月、10月、3月）発行予定で、2006年度から関西支部ホームページに掲示して閲覧していただいています。支部ニュース発行、総会・年会・例会などの開催通知等は支部全会員にE-mailで配信しています。まだ登録されていない会員の方は、会員氏名・番号、E-mailアドレスを関西支部事務局まで、ご登録いただくよう重ねてお願いします（関西支部の連絡先などは最初のページをご覧ください）。

○ 住所変更届のお願い

機関誌「天気」などの発送は学会本部事務局の会員名簿に基づいて行っています。学会事務局では会員の皆様の異動状況を早めに把握するように努めておりますが、把握漏れがあった場合には旧勤務地（旧住所）に発送され、旧勤務地（旧住所）の方に転送等の御迷惑をおかけすることになります。会員の皆様におかれましては、転勤等により勤務地（住所）が変わった場合、気象学会ホームページの会員登録情報の変更ページで申請いただくか、変更届を速やかに下記の学会本部事務局宛にご連絡いただきますようお願いいたします。

※ホームページ <https://www.metsoc.jp/about/join/>

※学会事務局 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL : 03-3216-4403 FAX : 03-3216-4401

E-mail metsoc-j@aurora.ocn.ne.jp

(注：メールアドレスはスパム対策のため全角で記しています。メール送信の際には半角で入力して下さい)

住所等の変更届

- | | |
|--------------|------|
| ・会員番号： No. | ・氏名： |
| ・旧勤務地（旧住所）：〒 | |
| ・新勤務地（新住所）：〒 | |

会費の納入など詳しいことは学会事務局にお尋ね下さい。

※学会事務局 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内

TEL : 03-3216-4403 FAX : 03-3216-4401

○ (社)日本気象学会入会案内

ホームページ: http://www.metsoc.jp/Form/nyukai_kojin.pdf

入会申込書(個人用)

公益社団法人 日本気象学会 FAX: 03-3216-4401

(二重線の枠内だけを記入しFax, 又は郵送願います。)

フリガナ		生年月日	(西暦) 年 月 日
姓 名		職業	
性 別	1. 男 2. 女		
刊行物などの送付先			
〒 -		(電話)	
現住所 (刊行物などの送付先と同じ場合は記入不要)			
〒 -		(電話)	
勤務先名/所属部署, 又は大学・学校名/在籍学部など (できるだけ詳細に) 及び所在地・電話番号			
〒 -		(電話)	
電子メール・アドレス			
会員区分 (希望する区分を○で囲んでください。学生/高年割引適用を希望する方はその文字を○で囲んでください。)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ A会員 (年会費 6,900円, 「天気 (毎月刊)」を無償配布) ・ B会員 (年会費12,600円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ: 偶数月刊)」を無償配布) ・ C会員 (年会費 6,600円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) A会員 (年会費 4,200円, 「天気」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) B会員 (年会費 8,100円, 「天気」と「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) ・ (学生・高年割引適用) C会員 (年会費 4,000円, 「気象集誌(JMSJ)」を無償配布) 			
注 ① 学生割引を希望される方は、在学証明書 (コピー可) などを提示願います。			
② 高年割引を希望される方は、4月1日に65歳以上であることが確認できる免許証 (コピー可) などを提示願います。			
③ 年の途中から入会される場合、会費は月割となります。 (参考: 月割の会費)			
刊行物の配布開始希望 年 月	(A会員: 580円/月, 学生・高年割引適用の場合 350円/月)		
天気 年 月号から	(B会員: 580円/月+950円/2月, 学生・高年 350円/月+650円/2月)		
気象集誌(JMSJ) 年 月号から	(C会員: 1,100円/2月, 学生・高年割引適用の場合 670円/2月)		
その他刊行物の定期購読の希望有無			
気象研究ノート	1. 希望する (号から)		2. 希望しない
大会講演予稿集	1. 希望する (年 春/秋 から)		2. 希望しない
来年からの会費納入方法 (希望の番号を○で囲んでください。)			
1. ゆうちょ銀行口座からの引落	注 ① 1. 2. 3. の場合は、手続きに必要な申込書類をお送りします。 ご記入がない場合は 4. とみなし、請求時に払込取扱票をお送りします。 ② 1. 2. 3. の場合の引落手数料は学会が負担します。 ③ 4. の場合、振込手数料は申込者負担とさせていただきます。		
2. 銀行口座からの引落			
3. クレジットカード決済			
4. 郵便局からの振込 (払込)			
通信欄 (その他)			

以下、学会事務担当者記入欄:

月割会費	天気: 冊 × 円 = 円	気象集誌: 冊 × 円 = 円	合計: 円
会員番号	所属支部	受付日	20 年 月 日
		承認日	20 年 月 日

2013.04.25